



CentreCOM AR560S リリースノート

この度は、CentreCOM AR560S をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書 (613-001301 Rev.A) とコマンドリファレンス (613-001314 Rev.A) の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.9.1-23

2 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.9.1-23** には、以下の制限事項があります。

2.1 認証サーバー

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。本現象は 802.1x 認証を使用した場合のみ発生します。

2.2 ログ

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

複数のログフィルターにそれぞれ複数のログ出力インターフェースを使用する場合、フィルターによって分類されたログメッセージが一つのメールで送信されません。

2.3 Ethernet インターフェース

「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」 / 「Ethernet インターフェース」

- RESET ETH COUNTER コマンドを実行しても、ifInOctets カウンターがリセットされません。再度、RESET ETH COUNTER コマンドを実行してください。
- SHOW ETH COUNTER コマンドで表示される ifOutOctets および ifInOctets の値が送受信したフレームのサイズよりも 8 オクテット多く表示されます。

2.4 ポート認証

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ポート認証」

- DISABLE PORTAUTH コマンドで、PORTAUTH パラメーターに 8021x を指定すると、EAP Success パケットを送信してしまいます。
- RESET ETH コマンドによって Ethernet インターフェースを初期化しても、認証状態は初期化されません。

- 802.1x 認証済みのクライアントがログオフした場合、ログオフしたクライアントの MAC アドレスがフォワーディングデータベース (FDB) に保持されたままになります。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVETIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVETIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVETIMEOUT の設定が正しく機能します。

2.5 ブリッジング

「コマンドリファレンス」 / 「ブリッジング」

- ポート 1 がタグ付きパケットのブリッジングの対象となる VLAN に所属し、その VLAN に IP アドレスが設定されている場合、ポート 1 から VLAN の IP アドレス宛の通信をしようとすると、ルーターが ARP に応答せず、通信ができません。これは port1 でのみ発生し、他の VLAN ポートでは発生しません。
- SHOW SWITCH COUNTER コマンドで表示される Receive Octets の値が受信したフレームサイズよりも 12 オクテット多く表示されます。

2.6 ダイナミック DNS

「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

- ダイナミック DNS のアップデートで、以下の 2 つのケースにおいて、アップデートは再送されません。
 - ・ 本製品からの TCP SYN パケットに対して、ダイナミック DNS サーバーからの SYN ACK パケットが返って来ない場合
 - ・ 本製品からの TCP SYN パケットに対して、ICMP Host Unreachable メッセージが返される場合
- ダイナミック DNS のアップデート (HTTP GET) に対する応答として、ダイナミック DNS (HTTP) サーバーから特定のエラーコード (404 Not Found) を受信すると、SHOW DDNS コマンドの Suggested actions の項目に HTML タグの一部が表示されることがあります。

2.7 DNS リレー

「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DNS リレー」

DNS リレー機能有効時、下記条件のとき、クライアントからの名前解決要求に対してクライアントが指定したアドレスとは異なるアドレスで応答します。

- ・ 2 つ以上の VLAN が設定されており、それぞれが異なる IP ネットワークに所属している
- ・ DNS クライアントが、DNS サーバーのアドレスとして自身が所属していない VLAN の IP アドレスを指定している

これを回避するには、自身が所属している VLAN の IP アドレスを DNS サーバーとして設定してください。

2.8 IPv6

「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- RIPng 経路を利用して IPv6 マルチキャスト通信を行っている場合、経路が無効(メトリック値が 16) になっても、しばらくその経路を利用して通信を行います。
- ガーベージコレクションタイマーが動作中の RIPng 経路は、新しいメトリック値を持つ経路情報を受信しても、タイマーが満了するまで経路情報を更新しません。

2.9 ファイアウォール

「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- HTTP プロキシ機能使用時、受信した HTTP パケットに複数の Cookie 要求が含まれている場合、DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES コマンドを実行していても、その Cookie 要求を破棄せずにフォワードしてしまいます。
- ダブル NAT を使用した状態で WAN インターフェースをリンクダウンさせ、ダブル NAT ルールに合致する通信を行うと、本製品がリポートする場合があります。これを回避するには、ファイアウォールを無効にしてください。
- ファイアウォール有効時に RSTP の Continuation パケットの遅延が発生し、動画配信が止まることがあります。
- RTSP、RTP を使用した VoD (Video on Demand) にて RTSP のネゴシエーションによって決定された RTP 受信用の UDP ポート番号を使用した RTP パケットを破棄します。
- ファイアウォールにてリモート IP を指定せずにダブル NAT ルールを設定すると、ルーターがすべての Gratuitous ARP に対して応答してしまうため、Host にてアドレス重複を検出し、通信できないことがあります。
- ファイアウォールにて動的に IP アドレスが割り当てられるインターフェースを Public インターフェースとして設定した際、ルール NAT の GBLIP パラメーターに "0.0.0.0" を設定すると、NAT 後のソースアドレスが Public インターフェースの IP ではなく、"0.0.0.0" に変換されるためパケットを送信しません。
- 3 つ以上のファイアウォールポリシーが設定されているとき、最初のポリシーに設定されているルールが正しく動作しません。
- ファイアウォールにて 3 つ以上のポリシーが設定されているとき、最初のポリシーに設定されているルールが正しく動作しません。
- ファイアウォールルールにマッチするパケットを受信すると SHOW FIREWALL POLICY COUNTER コマンドで表示される Total Packets Received カウンターが実際に受信したパケット数よりも一つ多くカウントされます。

2.10 DHCPv6 サーバー

「コマンドリファレンス」 / 「DHCPv6 サーバー」

- DHCPv6 サーバーで認証機能を使用した場合、ADD DHCP6 KEY コマンドの STRICT パラメーターが動作しません。
- ADD DHCP6 POLICY コマンドで DHCPv6 サーバーの設定を変更しても、サーバーから Reconfigure メッセージが送信されません。ADD DHCP6 POLICY コマンドの実行後、さらに SET DHCP6 POLICY コマンドを実行してください。これにより、Reconfigure メッセージが送信されます。

2.11 GRE

「コマンドリファレンス」 / 「GRE」

GRE 機能有効時、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される ETH インターフェースの受信カウンターが実際に受信したパケット数の2倍にカウントされます。

2.12 L2TP

「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」

ADD L2TP USER コマンドで ACTION パラメーターに dnslookup を指定し、PREFIX パラメーターは未設定とした場合、設定を保存し、再起動するとコンフィグエラーになります。これを回避するには、再起動トリガーで ADD L2TP USER コマンドを再入力してください。

3 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書 (613-001301 Rev.A) とコマンドリファレンス (613-001314 Rev.A) は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「613-001314 Rev.A」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>